

フロアからの質問(2019年7月20日 第21回関西大学FDフォーラム)

講演1 杉井 俊夫氏		
No	質問内容	回答
1	ティーチング・ポートフォリオを作成している教員の割合はどの程度でしょうか。私立大学等改革総合支援事業では、TP作成を義務付けて教員評価に入れるように求めています。評価制度にどのようにいれているか、教えていただければ幸いです。	本学ではティーチング・ポートフォリオといえるものを作成していません。個人で行っているかもしれませんが把握できていない状況です。現在、「教員活動重点目標・自己評価シート」で4つの責務(教育・研究・社会貢献・学内行政)について目標を行い学長へ提出(提出率99.2%)、返却して振り返り提出を行っているところとどまっております。今後、T.P.の重要性を共有し、そこにつなげればと考えております。
2	学生による授業アンケートの広報はどのような手段をとられていますか？効果があったものがあれば併せて教えてください。回答率をあげるための方策として参考にさせていただきたいです。	基本的には掲示のみ、教員にはメールでお知らせすることが基本です。学生には、教員が講義室にその期間おかれるラミネート保護したチラシを使って伝えていただくように強制はしていません。学科によっては80%以上のところもあります。そうしたところは、教員の回答率も高く、教員の意識が高くなるのが強制以外の解決法だと考えます。
3	学生自由記述件数について： p. 16で自由記述件数が、学期ごとに2000件程度とのデータが示されています。ということは、1授業あたり1件程度ということになりますでしょうか？	全く自由記述がないというのもあり、自由記述記入率にすると約10%になります。1授業当たり0.1件程度になります。
4	少しでもいいから具体的に教えていただきたいのですが、どのような授業評価アンケートでの学生の意見があり、どんな教員は改善をおこなったのですか？	授業改善アンケートを他の教員から見ることではできないので、私の例(自由記述)しか挙げられませんが、授業のスピードや理解度、わからなかった点など具体的なものが多く、次回に説明しなおしたり、配布資料を増やしたりと具体的な改善を行うのにとでも適していると思います。
5	授業改善アンケートについて： 利用件数のデータですが、これは、利用している授業数でしょうか？あるいは、アンケートをとった回数でしょうか？	アンケートを行った回数です。今回、紹介したシヤトルシート、ミニツペーパー、感想文など紙ベースでされている教員も多いことから、この数になっているものと思います。
6	教育活動顕彰制度のポイントを決めるプロセス： かなり詳細にポイント設定をされていると思います。そのプロセスには多大なご尽力があったかと思えます。評価項目の設定に関しては学部等からの反対もあったかと思うのですが、どのようにハンドリングされて、この制度を円滑に実施されるようになったのか教えてください。また、この制度を導入することの利点の1つは誰が優秀かがわかると、その方に教育相談がされ、そうした活動が全体の教育の質を上げると思うのですが、そうした取り組みは実際に起きていますか？お分かりになる範囲で教えてください！	当初は、学長直属の部署が率先して、全学から若い教員に参加していただき、導入していった形です。今でも、FD委員会の委員長は学長であり、他大学からのFD講演者の方からも驚かれます。本学はFD活動が進んだのも学長委員長ということが大きいと思います。全学では、5人の学部が異なる教員の授業見学・意見交換会を実施する「授業サロン」というのがあり、授業のピアコンサルテーションを担っています。そうしたメンバーの中に表彰された教員を含めたり、「FDカフェ」で話題提供していただき、お茶を飲みながらフリーディスカッションして教育の質の向上を図っています。沖先生筆頭の論文は「授業サロン」に参加した教員の授業評価のアップにつながったことを検証した論文です。学部ごとに、表彰教員による学部FD講演会を開いて授業運営の方法などを共有することが増えてきました。
7	クリッカーの利用頻度： 授業におけるクリッカーの利用頻度はどの程度でしょうか？	現在、正確な数は把握できていませんが、年によって異なりますが、年間120-150回くらいだと思います。
8	教員への授業改善サポート： 授業評価や授業改善のアンケートを見て授業を改善したいと考える先生へのサポートはありますか？	「キャリアアッププログラム」というワークショップを年間10回ほどの開催、話題提供に沿った何でもディスカッションができる「FDカフェ」が5回、授業のピアコンサルテーションを担っている「授業サロン」などが用意されており、目覚ましく改善された若手教員の実績もあります。
9	設問について： 設問4: この授業に取り組む教員の熱意ある態度を感じましたか という問いに対する回答から 学生がどのような態度に熱意を感じるのかを知ることは可能でしょうか 設問5: 授業を理解させるためのいろいろな手段や工夫は適切でしたか という問いに対する回答から どのような手段や工夫が適切であるかを知ることは可能でしょうか つまり ほかの科目を担当する教師にとっても有意義な結果が得られているかどうかということをお尋ねします	「熱意」は、声が大きかったり、元気がよい、空回りという点も気にされるとは思いますが、「どれだけ学生と向き合っていたか？」だと思います。教員には「熱意ある態度で取り組んだか」という質問がありますが、これを「ない」と答える教員がいたら問題だと思うくらいです。設問4にも関係していると思うのですが、学生に向かって工夫しているということだと理解しています。ですから、設問8との回答結果と相関が高い項目だと思います。例えば、クリッカーシステム(Cumoc)を使ったり、授業改善アンケートを使用したり、周りの学生と相談できる時間を与えたり、そうしたことは「キャリアアッププログラム」「授業サロン」「FDカフェ」「全学公開授業」などで教員が見つめています。教員が努力して工夫したことを失敗しても学生は、評価は低くならないところがこれまでの経験であります。

10	<p>授業評価結果の活用について 評価結果の高い教員が表彰されるのはわかりましたが、その結果が芳しくない教員へのアシストやサポートはどのようにされていますか</p>	<p>FD研修である『魅力ある授業づくり』プログラムという「授業サロン」「FDカフェ」「キャリアアッププログラム」「全学公開授業」など、毎年、いくつか開催し、ポイント制で3年間で15ポイント獲得で修了証がもらえる制度に誘ったりします。参加しない教員は、周りの教員がやっていることでまずいなという感覚を持つ教員と自分は関係ないと思う教員に分かれます。後者は、時代とともに淘汰されるので、若い教員から研修を受けてもらうように対応しています。</p>
11	<p>WEBアンケート回答率： 向上策について 各大学webに切り替えた結果3割程度の回答率になった事案が多い。 授業終了後の任意回答、授業内でさせる、といろいろ対策があると思いますが効果的な対策を自論で結構ですのでお示しできないでしょうか。</p>	<p>強制することで、実際に合わない(無茶苦茶な)回答も増えることも危惧しており、本学では学生には強要していません。回答率をアップさせるには、教員の意識も高めることが必要で、学科別にみると教員の授業自己評価の回答率が高いところは、必然的に学生の回答率もアップします。「Webでは、回答率が低いのでだめ」とおっしゃる教員が多いところほど、教員の意識が低く、コミュニケーションツールと理解できない学生の回答率が低くなります。当初は、学科別にデータを比較していましたが、あまりにも上げつないで近年ではさっと説明しています。</p>
12	<p>回答率は約30%であるが、在學生と回答學生と成績(GPA)の分布には相関がみられるとのことですが、これはそもそも真面目な学生だから回答もしてくれたし、勉強もちゃんとするということでしょうか。 それとも最初はそれほどでもなくても良い授業にあたれば、回答したくなり、成績もあがるということでしょうか</p>	<p>説明が良くなくてすいません。1万人強の在學生と回答してくれた約3千人の学生の成績分布は等しく、ある特定の成績が良い学生だけ、あるいは低い成績の学生だけが回答しているのではないということです。30%の回答率でも全学の学生の声に近いことを示しています。</p>
13	<p>優秀賞の盾、確かにとても欲しくなります。以下の2点について教えていただきたいです。 1) 優秀賞や特別賞をとられた先生方のシラバスや授業実践について、学内の他の教員が知る機会はあるのでしょうか。 2) 授業評価アンケートの結果について、科目の性質(分野、受講者数、授業形態など)による違いはありますか。</p>	<p>1) 本学では、シラバスだけでなく、任意の先生の授業評価結果(自由記述のまとめと教員のコメントを含む)をいつでも見ることができます。主任以上は、学生の生の自由記述(教員がまとめる前の生の記述)をも見えるように徐々にしてきました。 2) 授業評価アンケートの結果については、担当教員しか見ることができないため、傾向はわかりませんが、私が行っている授業80名と140名、授業形態(座学とワーク入り)では違いというのは特別には気づきません。</p>
14	<p>授業評価を極端に嫌がる教員一派がおり、そもそもアンケートをとっても意味がないなど、ネガティブ発言を教授会等とする教員がいるため中々物事が進まないのですが、何か対処方法についてアドバイスいただけませんか。</p>	<p>授業評価を教員評価と勘違いされる先生でしょう。本学も最初はそうした教員は多かったと思います。あくまで授業評価は学生のために行われるもの、「授業」の評価であって、「教員評価」とは異なることを知っていただくことが大切だと思います。したがって、今回の教員顕彰制度で使っている「授業評価」は15%であり、「授業評価」だけで決めてはけません。</p>
15	<p>FDカフェ： いいですね。1回に何人くらい参加されるのですか？ 形式は講演とディスカッションですか？</p>	<p>1回に平均10人前後です。事前申し込み以外に自由にプラット参加もできるゆるい形式です。しかし、参加していただくと3年間で15ポイント獲得で『魅力ある授業づくり』プログラムという研修プログラム修了証がもらえる1ポイントが付与されます。全体で2時間くらいで、30分弱毎回話題提供をいただくプレゼンターと高等評価推進部からコーディネーターを中心に、参加教員で意見交換をする形です。これまでのテーマとしては、春に行う「春カフェ(新任教職員よろず相談)」「私の授業づくり(シリーズもの)」「あなたは板書派？、パワポ派？」「無理せず、ぶれない、やる気を引き出す評価法」など話題からどんどん広がっていきます。専任教員、非常勤、事務職員だでも参加でき、人数が多い場合には、5人ずつのグループで分かれてディスカッションします。非常勤の先生方にもポイントはつかないですが好評です。</p>
16	<p>(質問カードでいただいたもの) 授業アンケートをWebで登校すると学生を特定することになり、自然と評価がたかくなるのではないですか？Webですることの短所を教えてください。</p>	<p>説明が端折ってしまい、すいませんでした。システム管理者以外には学生は特定されません。学生と教員には無記名ということ。なお、中にはセクハラ、パワハラなど至急対応しないといけない自由記述がある場合、すぐに対応できるようにシステム管理者だけが把握できるようにしてあることは重要だと思います。 Webの短所は、紙ベースと変わりなく、すぐにフィードバックをかけられる点からも長所が多いと思います。データの解析、自由記述のデータマイニングのしやすさなど。</p>

17	(質問カードでいただいたもの) 授業評価、2001年に無記名から記名に変更していますが、その目的は？	教員から、無記名にすると無責任、いい加減な誹謗中傷が多くなるので反対する意見が当時多かったことだったと記憶しています。しかし、記名式にすることで、良い意見しか書かない、本当のことを書いてくれる学生のアンケートではなくなることから、無記名に戻しました。教員は他からの評価には弱いので、1件でも悪い意見が書かれていると落ち込んだり、激怒したりする教員がどこにもいます。そういった先生ほど記名式を望みます。しかし、それに慣れる、向き合っていくことが教員には必要かと思えます。本学もそうしたことに時間がかかりました。実は、スマホにしたらもっといい加減な意見が来るかと思っていましたが、誹謗中傷は少なくなり、こちらの予想と違ったこともあります。それは、教員がきちんと学生の意見を読んで回答をしてくれていることが、鶏と卵の関係のような相乗効果となったものと思えます。
----	---	---

講演2 寺岡 伸郎氏		
No	質問内容	回答
1	学生へのフィードバックコメント： 丁寧にアンケートについて紹介をいただき、ありがとうございました。 1)学生がどのくらいフィードバックコメントを閲覧しているのか等のログ分析をされたりしておられますか？ 2)フィードバックコメントはどのようなものを記載すると望ましいのか、に関して教員にどのように伝えておられますか？サンプルとしてスライドに提示されている教員からのフィードバックコメントは画面上には一部しか載っていないのかもしれないのですが、2行程度で割と控えめな気がしましたの(いや、分量はそこまで関係ないかもしれませんが)、学生が不満に感じていることに対するフィードバックがされていないように思いました。おざっぱには教員は述べているのですが、個々の学生の改善点のフィードバックにはなっていないように思いました。	1)閲覧に関するログ分析は現在行っていません。閲覧数と学生の科目選択行動を分析するなどできればと個人的には思います。 2)コメント返信の依頼はおこなっていますが、内容は教員に任せている部分が大きいです。実際のところ教員によって返信の丁寧さに差はあります。制度開始から形骸化している部分もあることは否めないで、本学でも見直す部分があるとは思いますが。
2	KIT総合アンケートの回答方法： KIT総合アンケートの回答率が72.6%とかなり高い印象です。どのように回答・回収しているのでしょうか。	学生については特定授業で配付・回収をしているので回答率が非常に高い(90%)です。 卒業生、教職員については実際にはあまり回収率はよくありません。
3	マークシートによる授業評価アンケート結果は、各設問集計、自由記述内容ともに、当該教員にはシステム上においてどのように閲覧できるようにフィードバックされるのでしょうか？	講演資料と同じ画面を教員も閲覧することが可能です。特にマスキングなどは行っていません。
4	負担： KITさんは実にいろんな取り組みをされているので、学生さんも教職員もかなりガチガチにいろんなシステムを使ったり記入し続けるといけなイメージなのですが、それは教職員や学生は負担に感じないのでしょうか？	学生については初年次から各種システム等に入力などを習慣づけていることもあり、それほど負担にはなっていないと思っています。 教職員については実際には新しい取組が次々と始まり教員負担が増えていることに不満を持つ声も聞かれますので、教員に依頼する業務の精査を部署横断で行っているところです。
5	学習支援システム： 学生の利用率はほぼ100%とのことですが、教員の利用率も同等なのでしょうか？このようなシステムを学生はすんなり受入れると思うのですが、教員の中にはITが苦手な方がおられると思います。当学でもGoogleのLMSを導入しているのですが教員の利用率が低く、どうにかならないものかと悩んでいるところです。	教員利用率は実質割合で80%を超えたところです。システムとしてあまり難しいことを要求するものではないこと、この機能を使ってくださいと強制するものでなく、授業の特性に応じて使いやすいように使ってくださいと依頼していることもかえって利用率の向上につながっているかと思えます。 また学生にとってはWeb上に教材が上がっている方が当然利便性が高く、使用していない教員に対し学生からアップロードの要望があがることも利用促進につながっています。
6	改善について： アンケートやポートフォリオがどのように改善につながりますか？	アンケートに基づく授業改善については上述の回答などご参照ください。 ポートフォリオについては本学では様々なポートフォリオを運用しており一口にこう改善につながっているとは言い難いですが、総じて学生の達成度評価、自己評価、キャリアデザインなどに活用するものとなっています。

7	レーダーチャート: とても興味深いチャレンジだと思います。ただ、この後のフィードバックを実のあるものにしてしまうと・・・かなり難しいことのような気がします。具体的なアイデアがあればお聞かせください	全くもってご指摘の通りで作って学生に見せるだけでは何の意味もないものと思っています。 各学期初めに教員-学生間で修学面談をおこなったり、各学年にキャリアに関する科目を配当していたり現行の枠組みの中で当チャートを利用し、学生の修学計画やキャリアデザインの啓もうに活用できればと考えています。
8	ディプロマポリシーの到達度の評価をされていますか。されている場合は、ディプロマポリシーの到達度と、授業評価は連動させていますか。	DPIに基づく到達度の評価は現在点検評価部を中心に取り組み始めたところですが、まだ外部に公表できるところまでは確立していないのが現状です。
9	IR分析に活用されているという点で、様々なことを検証されていることと思うのですが、以下のような点について検証が進んでおられましたら教えていただきたいです。 1) 授業評価アンケートの結果が良いこと、または悪いことは、学生のどのような側面に関連するのでしょうか。 2) 授業実践が改善されたことによる効果はどのような側面で現れてくるのでしょうか。	IRでこれまで主眼をおいていたのが学習到達度(あからさまに言えば落第者への対策)でして、授業評価と実際の成績評価、受講学生の成績におけるクラス間格差などについて相関性などを検証し、この情報をもとに学科教員等へ改善を依頼するなどしてしています。 結果としては留年、退学者の減少などが対応した学科で見られましたので、一定の成果はあったかと思っています。
10	学修到達度レーダーチャートはディプロマサプリメントにも活用されているのでしょうか？	レーダーチャートの性質的にはディプロマサプリメントに十分活用可能とは思いますが、現在のところ具体的な活用まで検討できていません。 うまく連動できればとは思っています。
11	システムの構築について: 授業アンケート、GPA、シラバスのデータを連動させたシステムの構築は、一般的に大学で使われる既存のシステムを利用したものです。貴学が工学系のため自前でシステムを構築されているのか、学生の学修評価において非常に重要なため本学でも参考にしたいです。是非、ご教授ください。	元となるデータは既存システムから抽出しているもので、基本的にはそれぞれのシステムは学内のシステム部とほぼ身内の開発会社が設計、運用しています。他システムと統一的に運用しなければなかなか継続して運用していくことが難しいので、個別のシステムを市販のパッケージをつかったり全く新しい会社に発注したりといったことがしばしばという背景もあります。

講演3 津野 十紫氏

No	質問内容	回答
1	実施率、回答率はどうなっておりますか？	実施率、回答率について公表していない。
2	学習成果実感調査について 授業外学習時間の結果がわかれば教えていただきたいです。また、「1週間あたり」もしくは「1科目あたり」の授業外学習時間でしょうか。	各学部が分析結果として、報告書で触れている以外の個別の数値は公表していない。
3	対話シートは とてもよいアイデアだと思います 学生が改善を望むところを具体的に知ることができると思います 今までにこの対話シートにおいて 教員を誹謗中傷するような内容はありましたか あるいは それを防止する策が講じられていますか	対話シートの集計・分析は各教員が行うため、学生の記入コメント等、詳細を把握することはできない。対話シート実施の際、授業を評価するものではなく、授業内容・進め方について、学期途中に教員と学生が対話を行うことで、共により授業を創り出すことを目的として実施するため、建設的な意見を記入するよう説明している。
4	アンケートの報告について 1.かなりの数の報告書が出てくると思われそうですが、どんなものを取り上げて教授会等で報告されていますか？また報告書で取り上げている項目や分量で指定しているものがあれば教えてください。 2.教員はどうしても省力化したいので、毎年同じ報告書を書く・・・コピペ・・・とかになってしまうということはないでしょうか？特に授業が変わらない限り毎年同じコメントが学生から出される。授業改善が必要な先生に限って、コピペ・・・とか。そんなことはないと思いますので、ぜひ否定してください！	対話シートの実施報告書のコメントは、当部署で授業運営、授業技術、授業内容、授業雰囲気、教室環境等の属性に分けて、所管する委員会でも共有している。当学期の報告書しか見ていないため、同じ内容か確認していない。
5	学部ごとに「重点テーマ」を決めるということですね。そのときに、各学部ごとに、「重点テーマ」に沿って、しっかりとPDCAサイクルが回っていますか？ また、教育支援研究開発センターとして全体を見渡せていますか	重点テーマに沿って、実施、結果の分析、改善計画等を学部が報告書にまとめ、次年度につなげていく仕組みになっており、PDCAが回っていることは報告書からも確認できる。
6	キョウイクプログラムシエン制度は とても魅力的な制度だと思います 単年度における採択件数や 支援金額など 差し障りのない範囲でお知らせくださいませ	全体の予算額は200万円で、過去3年間で概ね年間5～6件を採択している。2019年度は採択件数5件、採択金額1,995,980円である。
7	学生成果実感調査の結果については、それを何らかの形で学生自身が活用するような仕組みは、ありますか？	学生自身の成長実感および学部カリキュラムの改善を目的として実施しており、学生自身が活用する仕組みはない。

8	対話シートと学生成果実態調査では、どちらがより改善につながってると思われますか？	対話シートは各科目レベルであり、個々の学生の授業に関する対話为中心で、学習成果実態調査は各学部・教育プログラムレベルである。目的や設問も異なり、比較することはできない。
9	お話を聞いていて、負担がかかるシステムのように感じますが、ご担当としてどのように感じていますか？	学習成果実態調査の実施について、大学全体のしくみとして運用するのは、教育支援研究開発センター事務室であり、授業プログラムとして実施及び改善するのが学部事務室である。年間の流れが定着しており、それぞれの役割が機能しているため、システムそのものはそれほどの負担はない。担当している部署としては、科目数が多いと作業量が増えること、調査用紙への記入ミスの確認に手間は感じている。
10	授業コンサルの対応者： 授業コンサルの対応者はどなたがどのような形でされるのかももう少し詳しく教えてもらえますか？	ファシリテーションのスキルを持つF工房の嘱託職員が対応している。授業等の内容や運営をヒアリングし、目標とするところを明確にしながら進め方について、意見交換やアドバイスをしている。
11	コモンズの活用について： 多様なコモンズをお持ちですが、授業との連携や利用者へのアンケートなどの事例があれば教えていただきたいです。	ラーニングコモンズでは、教員からの依頼に基づき、授業で、レポートライティング等希望に応じて説明、レクチャーをしている。実施しているワークショップにおいて、アンケートの記入をお願いしている。
12	「学習成果実態調査」の対象科目の選定について： 各学部の方針に基づいて、当該調査に関わる科目の選定を行うとのことでしたが、この方針はどの程度の期間で見直すのでしょうか。スライド10頁下部のプロセスを拝見すると、年間計画を策定し、科目選定を行なっていらっしゃるようで毎年度見直しているように思われますが、経年的なデータの蓄積及び改善状況のモニタリングの観点から、どのように運用されているのかご教示くださいますと幸いです。	1年間というサイクルの仕組みのため、毎年度、学部で方針を検討（見直しも含めて）されている。学部では、結果分析し、改善につなげられていることが、年度の報告としてまとめられている。
13	対話シートの実施状況報告： 実施状況報告についても、非常勤講師を含む全教員・全科目について、義務付けられているのでしょうか。また、その回収率は、どれくらいでしょうか。ご教示いただければ幸いです。	対話シートの実施報告は非常勤講師を含む全教員・全科目を対象としている。教員と学生間で対話をするのが目的のため、実施報告書の回収率について把握はしているが、公表していない。